

高畠

本県南部と宮城県を結び、幕末の志士吉田松陰も通ったと伝わる二井宿峠を散策する「二井宿峠古道ハイク」が10日、高畠町二井宿地区公民館を発着点に繰り広げられた。県内外から参加した約40人が、松陰に思いをはせながら、新緑まぶしい峠を満喫した。

二井宿峠ハイク

松陰の足跡たどる

古道ハイクは住民らによる実行委員会（島津憲一委員長）が主催し17回目。歴史や自然に触れ合うさまざまなコースを設定しており、今回は松陰にスポットを当てた往復約8キロの行程を組んだ。

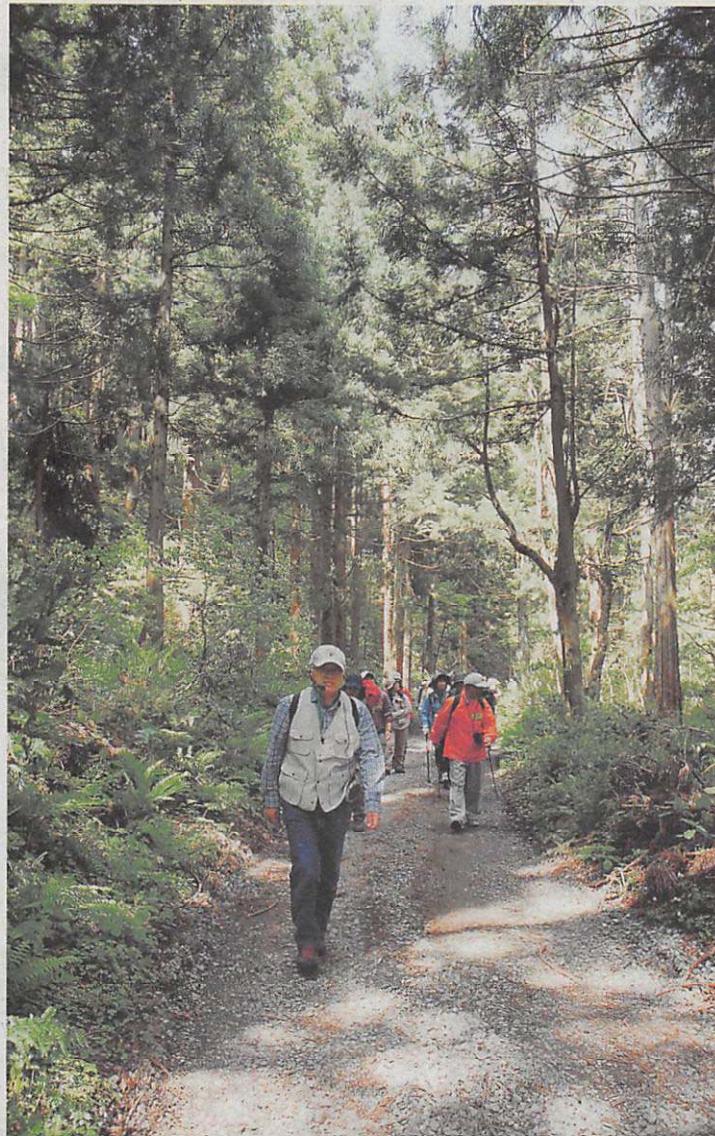
松陰は1851（嘉永4）年12月14日～52年4月5日、東北各藩の海防調査などを目的に東北遊学を行った。松陰の「東北遊日記」によると、宮城県白石市から米沢市に向かう途中、3月25日（現在の5月23日）に二井宿峠を通過した。

出発式で島津委員長は「自然と歴史に親しんで

風薫る古道歴史に感動

ほしい」とあいさつ。3た。峠の途中、漆の木が班に分かれてスタートし生えている場所では島津

と解説。参加者は「なるほど」「本当にこの辺をニリンソウなどと見分生するエリアでは「白い花がこの時期に咲く方が通ったんだね」と話してけ方をアドバイスした。



歴史と自然に触れた二井宿峠古道ハイク＝高畠町